

## 自動撮影・編集 ■ 動画で技術向上

無人カメラで撮影した動画を基に、人工知能（AI）が見やすく編集して参加者に配信するサッカー教室が今月4日、戸田市内で開かれた。人手をかけた練習を記録し、選手の技術向上に役立てる狙いで、AIを活用した新たな取り組みとして注目を集めた。

（川村祐生）

# サッカー教室でAIカメラ活用

■ 無人で正確に戸田市菅目の荒川河川敷にある公園。グラウンド脇には高さ約5メートルの三脚の上に、見慣れた円盤状のカメラが設置されている。

市内のサッカー少年団11チームから小学4年生以下の子ども約130人が集まり、練習試合を始めたが、カメラを操作する人は

誰もいない。しかし、撮影された動画を基に、ボールの動きを正確に追いかける、コーナークICKの時にはゴール前で走り合う選手たちに焦点を当てるなど、カメラマンが撮影したような映像に仕上がっている。

動画を見た戸田一サッカースポーツ少年団団長の市村卓也さん（55）は「全体を見ることができ、保護者などが撮影したもの比べても、指導に生かしやすい」と感心した。

グラウンド全体を撮影できる画角200度の広角ビデオカメラと、シュートやドリブルなどのプレーを画面中央に表示するAIの組み合わせが、こうした動画の撮影・編集を可能にしている。

映像を処理するAIは、様々な試合の動画を取り込んで「学習」することで、ボールや人の動きを予測する精度を磨いている。このため、ロングパスが出ればボールより先に落下地点で走り合う選手たちに焦点を当てるとなると可能になった。

■ テレビ局も注目少年スポーツや中学、高校の部活動などでは、練習や試合を撮影する人が足りず、保護者が当番でカメラを回したり、補欠の選手が撮影係を引き受けたりするなど、やりくりに苦労している。人手を介さずに動画を記録することができれば、競技全体のレベルアップが期待できる。

このサービスは、NFTグループの「NFTスポーツ（大阪府）」が手がけており、サッカーだけでなく、野球やバレー、アメフトなど各種の競技に対応している。既に岐阜県の社会人バスケットボールチームや、兵庫県の高松サッカー部などが利用しているという。

テレビの地方局からも問い合わせが相次いでいる。地方球場などに撮影スタッフを派遣する余裕がなく、放映できない高校サッカーやバレーの観覧席などを低コストで撮影し、オンライン配信することが可能になるためだ。NFTスポーツは、30局以上と提携し、カメラの提供や配信サポートなどを請け負った。

同社の代表取締役ビジネス開発部長は「対応競技をさらに増やして日本のスポーツ界に貢献し、盛り上げていきたい」と述べた。



試合を撮影する無人カメラ（4日、戸田市で）